



5

2025
(令和7年)

No.237



志賀町のみんなに幸せあれ！

シンガーソングライター 長瀬 剛
「能登半島地震復興支援ライブ」

シンガーソングライター 長渕剛 「能登半島地震復興支援ライブ」

3月16日(日)、歌手の長渕剛さんが志賀町を訪れ、熱い想いのこもった弾き語りで、町民にエールを送りました。



鹿児島県出身の長渕さん。今回の無料ライブは霧島市の職員が志賀町に応援派遣されていたことがきっかけ。長渕さんが霧島市長の中重真一市長に「自分も力になりたい」と申し出、稲岡町長と電話で話しました。稲岡町長は「支援は奥能登に集中傾向で、僕らとしては被災地から取り残されたような気持ち。ぜひ来てほしい」と訴えました。その熱い思いに胸を打たれた長渕さんが、ギター一本を引っ提げてやってきました。

この日の午前中、ライブに先立ち志賀町の堀松集会所で、被災直後から避難所運営にあたった区長や消防団員、医療従事者、炊き出しをしていた飲食店関係者約20人と交流し、被災当時の様子に耳を傾けました。

▼富来地頭町区長の坂野満さん…「延べ287日、避難所を運営していました。一番困ったのは『水』。助かったのは、ボランティアの方々と、彼らの力のすごさに感心させられました。今でも付き合いが続いています」

▼東増穂分団の杉下清吉さん…「避難所の富来小学校でお手伝いしていました。道路の隆起や割れで、一般の人の車が動けなくなったという状況があり救出しました。震災直後は、正直絶望しかありませんでした」

▼富来領家町区長の山本政人さん…「避難所では『こういう状況だからお互いに助け合おう』という思いが皆さんあり、その思いに助けられ、前を向き立ち上がる力になりました」

▼富来病院看護師の川村悠子さん…「高齢者の多い志賀町で、入院が必要な人がたくさん来ましたが、入院設備の崩壊した当院では、受け入れができませんでした。これだけ多く断り続けた経験はなく、それが一番辛かったです。プレハブや空いた部屋を活用し、少しずつ入院活動を再開しました。元々は実家の能登町に帰省していた時に被災し、実家や避難所に子どもを置いて病院に行くことは、本当に…これでいいんだろうかと毎日思いました」

▼イグレックの奥野裕介さん…「飲

♪ 誰かがこの僕を

作詞・作曲／長渕 剛

またひとつ負けちまった
死にたくなっちゃうよ
悔しくて悲しくて
もうどうしようもない

淋しがないでと
僕はこらえてきたんだ
弱虫が大っ嫌いな
この僕だったから

そんな時にこの僕は
空を見て考えた
いったい誰の為に
生きているんだろう

どれだけ走っても
夕焼けには追いつけないさ
僕は僕の為にやっぱり
生きてゆこう
苦しみを越えたら
いつかきっと
誰かがこの僕を
必ず待っていてくれるだろう

心が疲れたんだ
今は涙の雨がいい
心がおれそうで
勇気を探したんだ

泣きたくなるほど
生きてゆけばみつかる
何度でも立ち上がって
明日をにらみつけた

そんな時にこの僕は
空を見て考えた
いったい誰の為に
生きているんだろう

どれだけ走っても
夕焼けには追いつけないさ
僕は僕の為にやっぱり
生きてゆこう
苦しみを越えたら
いつかきっと
誰かがこの僕を
必ず待っていてくれるだろう

苦しみを越えたらいつかきっと
誰かがこの僕を
必ず待っていてくれるだろう



食店の私たちができることは何かと
考えた時、『食』を通じて助けること
しかないなと思い、地元の飲食店か
ら協力をいただき炊き出しを実施し
ました。SNSを通じて資金提供し
ていただいたり、地元農家さんか
らの野菜や食料支援のおかげで炊き出
しができました」

町民の話を、時折うなずきながら
話を聞いていた長渕さんは「まずは
早く来ることができなくて本当にご
めんなさい。ふるさとが壊れる瞬間、
絶望の淵にみんなが立った瞬間に、
ここに集まってきた人たちは、真っ
先に動いていただいたんだと…。
僕のほうから言うようなことではな
いんですが、まずそのことにありが
とうございました。本当に苦労さ
までした」とねぎらいの言葉を送り
ました。

そして自身の楽曲『誰かがこの僕
を』を熱唱。苦しみの先にある希望
が書かれた歌詞、そして苦難を乗り
越えてきた人の心に響く長渕さんの
歌声に、涙を流す参加者もありました。



志賀町の みんなに 幸せあれ！



被災者へ 長渕 剛さんのエール —

「日本中に見せてやってくれ、志賀町魂を！一緒に戦おう！」

3月16日(日)の午後、長渕剛さんは、志賀町文化ホールに移動し、全7曲の歌とトークで志賀町民にエールを送りました。

3倍以上の応募から選ばれた約450人が待つ会場に大歓声を浴びながら登場した長渕さんは「大変だったと思うけど、こうして皆さんと会うことができて本当に良かった。僕の歌で楽になってほしいし、少しでも楽しい時間をつくりましょう」と呼びかけました。

ステージは、代表曲『とんぼ』で幕を開け『しゃぼん玉』も熱唱しました。

「ほんと頑張ったね。まだ完全な復興はしてない。本当に生きていてくれてありがとう。皆さんが立ち上がったのは、苦しみを共有し共に寄り添ってきたから」とねぎらい、集会所でも披露した『誰かがこの僕を』を歌い、「今日はみんなと会って、また戦いたくなりました。俺も負けねーからな。日本中に見せてやってくれ、志賀町魂を！」と叫びました。

ラストは『乾杯』のサビ部分を大合唱し、会場は一体感に包まれました。「少しでも、歌ったこの瞬間を忘れないで一緒に頑張ろう」と激励し、歌詞にちなんで「志賀町のみんなに幸せあれ！」と祈願。最後は客席に降りて来場者と一緒に記念撮影し、忘れられない思い出をプレゼントしました。





／ 涙と笑顔溢れるライブをありがとう!志賀町魂で一緒に戦います! ／

